

シグマ研究委員会諮問調整委員会 議事概要

日時 : 平成2年9月11日(火) 9:30~12:30

場所 : 原研本部第2会議室

出席者: 木村(京大工)、中沢(東大工)、中嶋(法政大教養)、大竹(データ工学)、松延(住友原子力)、神田(九大総理工)、水本(原研)、菊池(原研)

配布資料

- | | |
|----------------------------|----|
| 1. 原研内におけるJENDLの使用状況 | 菊池 |
| 2. JENDLの文献における引用調査 | 菊池 |
| 3. JENDLに関するアンケート結果 | 菊池 |
| 4. 核データにふさわしい流通機構に関するコメント | 中沢 |
| 5. 欧米の核データ活動とくに実験サイドの現状を見る | 木村 |

議事

1. 資料1に基づいて菊池氏が原研内におけるJENDL使用(未使用)状況に関する聞き取り調査の報告を行った。調査箇所はTCA、VHTRC、炉修、動力試験炉、JMTR、炉管理、HTTR、NUCEF、放射化全般である。

これらの利用者はJENDL-3が新たに作成されたのは周知しているものの依然JENDL-2やENDF/B-IVベースのライブラリーを使用している。

その理由は

- ①SRAC及びMGCLライブラリーとして提供してもらえれば利用する。
- ②ライブラリー間に有意の差がなく現在のライブラリーで十分である。
- ③冷中性子の散乱データに問題がある
- ④高エネルギー、荷電粒子反応の断面積を使用する必要がある。

そのほか、SRACとMGCLとの間の系統的な問題点があること、ガス炉の予測精度が初期の頃B-IVの方がJENDLより良かったこともありVHTRCでの解析に未だに使用されていない等の問題点が議論された。

2. 資料2に基づき菊池氏がJENDLの文献における引用調査の報告を行った。

調査方法は、INISのデータベース中に、JENDLという語のあるものを、タイトル中(原研のINIS検索システム)、アブストラクト中(JICSTのJOISシステム)に分けて調べた。結果は以下の通り

- ①タイトルにJENDLのある文献数97件、アブストラクト中にあるもの233件
- ②著者の内訳で核データセンター、シグマ委委員が全体の2/3、国外著者が8%を占めている。
- ③内容ではJENDLプロジェクトに直接関係しているものと利用側で50%づつ。
- ④出版形式、JEARIレポート、Mレポート50%、国内外誌25%づつ。

そのほか、評価の報告の出版形態に関して活発な議論が行われた。その内容は以下の通り、明確な結論は出なく、今後引き続いて議論する必要がある。

①新たな実験データや新規の評価方法がないものは学会誌のオリジナル論文ではなく、JEARI-Mレポート等で出版すべきである。

②評価のレポートはテクニカルレポートなら良いのではないか。

③オリジナリティーのある論文だけしか受け付けられないのでは評価の分野に人を得られなくなるだろう

④原子力学会誌は実用上有用な仕事を掲載することが重要であろう。

⑤材料のデータベース作成に関しての論文発表に同様の問題点がある。

⑥実験データに関しても、精度を向上させるのが目的であるような実験では同様なことが言える。

3. 資料3に基づきJENDLに関するアンケート結果を菊池氏が報告した。

内容は、①JENDL-2の利用目的、②満足度、③JENDL-3の利用予定等であり、JAERI-memoの形で纏める予定。

4. 資料4に基づき中沢氏が核データにふさわしい流通機構に関するコメントを行った。提案の主旨は以下の通り、

①核データ関係者内での意見交換、Q&Aシステムを可能にするようなエキスパートネットワークシステムを作る（核データニュースの発展形態）。

②核データ周辺外部の人にはFAXによる問い合わせシステムを作る。

送られた質問に対して、“答得る人”、または“データの所在”を回答し、2回目以降の同一の質問には自動回答ができるようなシステムへの成長を図る。

提案に対して以下の議論や質問が行われた。

①システムのイメージがはっきりすれば、ワークステーション等のハードウェアの要求をする必要がある。

②原子分子、材料等のデータも含める必要はないか。

③周辺諸国との間のデータ流通も同様に考えるのか（計算機などのインフラストラクチャー整備の遅れのために困難だろう）。

④一般向けの出版物をもっと作る必要がある。（例えば、JENDL-3のパンフレット、手帳、日記帳、カレンダーなど）

5. 木村氏から実験に関するアンケート調査を実施している旨報告があった。9月末を回答の締切としており、次回の委員会までには取りまとめたい。

6. 資料5を基に欧米の核データ活動特に実験サイドの現状を木村氏が報告した。

米国、英国、西ドイツの最近のプログレスレポートを基に国立研究所や大学における最近の実験内容が纏められた。各国とも核データに関する活動は往時に比べて低下している。今後どうなるかは予測しにくいのが現状である。

7. 次回会合予定

平成2年11月28日 3:00 pm 原研本部